令和元年度　認定中心市街地活性化基本計画のフォローアップに関する報告

　令和２年５月

丹波市（兵庫県）

**○計画期間：平成２８年４月～令和３年３月（５年）**

Ⅰ．中心市街地全体に係る評価

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **１．令和元年度終了時点（令和２年３月３１日時点）の中心市街地の概況**  丹波市では、平成２８年３月に基本計画の認定を受け、「丹波の魅力を磨き発信し、集客と生活の基盤を創造するまちづくり」を基本理念とし、商業の活性化、市街地の整備、都市福利施設整備、居住環境の向上など計画に基づいた５３の事業に取り組んでいる。  これまで長年着実に重ねてきたテナントミックスと街なみ整備を軸とする活性化事業の軌道を外さず継続するとともに、観光誘客や情報発信、イベントをはじめとするコミュニティ事業等の多様化にも対応し、ソフト面の計画推進にも取り組んできた。  平成２９年度に「城下町風外観修景事業（１件）」、「テナントミックス事業（２件）」「商工会館リノベーション調査事業」を実施し、平成３０年度は歴史案内板整備や城下町風外観修景事業の実施、また平成３０年度から令和元年度にかけて、水の景観再生事業実施に向けての関係機関との情報共有、協議、旧町役場活用の検討等の事業推進に取り組んだ。  また、たんば黎明館（旧大手会館）とその周辺における句碑広場、中島大祥堂（和・洋菓子、カフェ）等㈱まちづくり柏原が主体となった公民協働によるストック活用による新しいタイプの施設づくり、そしてエリア内の歴史文化施設との連携した活用が、まちの回遊性を生み出しており、活性化プロジェクトの効果が年々数字としても表れるようになった。  【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】　　　　　　　　　（基準日：毎年度1月1日）   |  |  |  |  |  |  |  | | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | | （中心市街地区域） | 平成27年度(計画前年度) | 平成28年年度(１年目) | 平成29年度(２年目) | 平成30年度(３年目) | 令和元年度(４年目) | 令和2年度(５年目) | | 人口 | 1,859人 | 1,852人 | 1,878人 | 1,850人 | 1,808人 |  | | 人口増減数 | 14人 | ▲7人 | 26人 | ▲28人 | ▲42人 |  | | 自然増減数 | 4人 | 11人 | 13人 | ▲11人 | ▲27人 |  | | 社会増減数 | 10人 | ▲18人 | 13人 | ▲17人 | ▲15人 |  | | 転入者数 | 62人 | 50人 | 81人 | 54人 | 45人 |  |   基準日 　H28.1.1 H29.1.1 H30.1.1 H31.1.1 R2.1.1  **２．令和元年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見**  丹波市と中心市街地活性化協議会では、令和元年度に２回の定例会、１回の街なみ環境整備委員会と必要に応じて会議を開催し、情報共有と意見交換をしながら、関係者が連携、協力して計画に位置づけた事業の実施に向けて取り組んできた。  また計画推進に向けて新たなコーディネーターやアドバイザーを招へいした。  中心市街地活性化協議会の構成員でもある商店街連合会や自治協議会、柏原まちづくり協議会、観光まちづくりの会等からは、長年の活性化まちづくりのスローガンである「ロマン城下町」にふさわしい風情と活気が年々高まり、日常の店舗や文化・交流の場の利用者とともに観光客が増えつつあるといった見解が示されており、これまでの成果をより多くの人に活用され生かす努力を強めるとともに、計画に基づく継続事業の着実な推進や主要事業への着手、実行の動きを確実なものとし、基本計画最終年度における事業推進に取組んでいく必要がある。 |

Ⅱ．目標毎のフォローアップ結果

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **１．目標達成の見通し**   |  |  |  |  |  |  |  |  | | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | | 目標 | 目標指標 | 基準値 | 目標値 | 最新値 | 基準値からの改善状況 | 前回の  見通し | 今回の  見通し | | ストック活用による集客・交流機能の強化 | 歩行者・自転車通行量 | 714  人/日  (H26) | 1,348  人/日  (R2) | 1,156  人/日  (R1) | Ｂ | ③ | ③ | | 暮らしを支える文化・社会サービスの提供 | 文化・交流施設利用者数 | 22,478  人/年  （H26） | 30,000  人/年  (R2) | 25,263  人/年  (R1) | Ｂ | ① | ③ | | 地域経済の新陳代謝を生む起業・創業支援 | 新規店舗開業数 | 7店舗  (H21～H26) | 11店舗  (H28～R2) | 4店舗  (H28～R1) | Ｃ | ① | ④ |   ＜基準値からの改善状況＞  Ａ：目標達成、Ｂ：基準値達成、Ｃ：基準値未達成  ＜取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類＞  ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。  ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。  ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。  ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。  **２．目標達成見通しの理由**  ①歩行者・自転車通行量  　　平成２７年度は４月に「たんば黎明館」がオープンした影響で１，０２０人と大幅に増加したが、平成２８年度は７２１人と基準値（７１４人）から微増に止まっており、主要な整備事業がまだ準備段階であることが影響していたと考えられる。しかし平成３０年度には平成２９年度までに実施したテナントミックス事業やたんば黎明館活用促進等の効果が発現しつつあり、平成２９年度に引き続き全体として伸びる傾向とすることができた。  　　令和元年度は、平成２９年度なみの結果となったが、テナントミックス事業やたんば黎明館活用促進等の効果により来街者は増加傾向であったため、新型コロナウイルスが早期に終息すれば、令和２年度に設定している目標数値の達成は見込めるものと期待しているが、世界規模で広がった新型コロナウイルスの影響を懸念している。  　　一方では、これまでに実施した活性化拠点整備により、地区全体への来街者や観光客の実数は増えているものの、今もなお自動車利用が多いという課題は解消されていない。歩行者に安全・快適な交通環境整備を推進するため、ゾーン全体の交通規制「ゾーン３０」の促進及び周知徹底や案内板の活用、ソフト面の情報発信ツールとの連動・拡大などにより、歩行者通行量のさらなる増加、観光客の誘引に繋げる方策を取り続けることが必要である。  ②文化・交流施設利用者数  　　平成２９年度、平成３０年度は、木の根橋周辺の観光案内所入込数及びたんば黎明館利用者数のいずれもが増え、中心市街地活性化エリア全体への来街者や観光客数の増加により目標数値を達成している状況であったが、令和元年度においては新型コロナウイルスの影響により目標値の約15.7％減となっている。  　　土地の所有者との調整が整わないなど、主要なハード整備事業が中断している状況であり、また新型コロナウイルスの影響も懸念されるところであるが、文化・交流施設利用者の促進につとめ、計画最終年度においても目標達成に向けて各種取り組みを進める必要がある。  ③新規店舗開業数  　　平成２８年度の新規開業は０店舗であったが、平成２９年度はテナントミックス事業による２店舗の開業があり、平成３０年度についても２店舗を数えた。令和元年度は、新規出店に至ったケースはないが、空き店舗を活用したチャレンジショップの整備に取り組み、令和２年度はその出店を目指しているが、新型コロナウイルスの影響により現時点では新規に出店することは大変厳しい状況であり、目標達成は難しいと考えている。  **３．前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由**  「文化・交流施設利用者数」  目標達成の見通しについて、平成３０年度のフローアップにおいては、目標を達成していたため①と評価していたが、主要事業５事業のうち２事業が土地の所有者との調整が整わないことや、旧役場活用計画が白紙となり事業の進捗が見込めないことから、今回③と評価した。  「新規店舗開業数」  目標達成の見通しについて、平成３０年度のフォローアップにおいては当初計画どおり平成３０年度末までのトータルで４店舗が開業したため①と評価していたが、新型コロナウイルスの影響により新規店舗の開業が見込めないため今回④と評価した。 |
| **４．目標指標毎のフォローアップ結果**  「歩行者・自転車通行量」※目標設定の考え方基本計画P84～P88参照   |  |  | | --- | --- | | 年 | （単位）人/日 | | H26 | 714  （基準年値） | | H28 | 721 | | H29 | 1,102 | | H30 | 1,516 | | R1 | 1,156 | | R2 | 1,348  （目標値） |   **●調査結果の推移**    ※調査方法：歩行者・自転車通行量調査（中心市街地６地点・参考地で実施）  ※調 査 月：令和元年７月・１０月の平日に実施  ※調査主体：丹波市  ※調査対象：歩行者・自転車通行者  **●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果**  ①．テナントミックス推進事業（㈱まちづくり柏原）   |  |  | | --- | --- | | 事業実施期間 | 平成２８年度から令和２年度【実施中】 | | 事業概要 | 空家・空店舗活用によるテナントミックスの実施 | | 国の支援措置名及び支援期間 | 地域・まちなか商業活性化支援事業（中心市街地再興戦略事業）のうち先導的・実証的事業（経済産業省）（平成２８年度から令和２年度） | | 事業効果及び進捗状況 | 毎年１店舗、計５店舗を創業させるテナントミックス事業を予定しており、平成２８年度の開業は０店舗であったが、平成２９年度は国の補助金を活用して２店舗の整備事業を行い開業している。平成３０年度についても１店舗の開業実績を数えたが、令和元年度は０店舗であった。新規出店の希望はあるものの創業計画、事業計画を精査した結果実施には至らなかった。 | | 事業の今後について | 今後とも㈱まちづくり柏原が中心となって活用可能な空店舗等の確保、建物所有者との交渉、出店希望者の募集等を行い、活用事業を促進していく。 |   ②．商工会館リノベーション事業（丹波市商工会・㈱まちづくり柏原）   |  |  | | --- | --- | | 事業実施期間 | 平成３０年度から令和２年度【実施中】 | | 事業概要 | 商工会館をシェアオフィスなどインキュベーション施設としてリニューアルを行う。 | | 国の支援措置名及び支援期間 | 地域・まちなか商業活性化支援事業（中心市街地再興戦略事業）のうち先導的・実証的事業（経済産業省）（平成３０年度から令和２年度） | | 事業効果及び進捗状況 | 商工会館柏原支所をシェアオフィス等として貸し出すため、リノベーションを行う事業を予定しており、平成２９年度は国の調査分析事業が採択され、平成３０年度はその実現への仕組みづくりを協議しており、令和元年度は具体的な改修内容を検討したところでる。 | | 事業の今後について | 令和２年度に改修を実施する予定である。 |   ③．丹波らしい宿泊機能の整備事業（民間）   |  |  | | --- | --- | | 事業実施期間 | 平成３０年度から令和２年度【実施中】 | | 事業概要 | 古民家活用によるゲストハウス、オーベルジュ、体験型宿泊施設等の企画、運営 | | 国の支援措置名及び支援期間 | 地域まちなか活性化・魅力創出支援事業費補助金（中心市街地活性化支援事業）のうち先導的・実証的事業（経済産業省）（令和２年度） | | 事業効果及び進捗状況 | 平成２９年度には市の観光施策の強化に伴う「古民家等を活用した滞在型施設整備プラン策定業務」が実施され、平成３０年度はその実施方策の検討が進み、体験型も含めた丹波らしい宿泊施設整備の事業化への条件整備に努めた。  令和元年度は、まちづくり柏原が事業主体としての可能性を探るため先進地の視察を実施するなど研究を深めた。 | | 事業の今後について | 活用可能な古民家の把握に努め、事業実施に向け引き続き参入業者の確保を目指す。 |   ④．シェアハウス実施事業（民間）   |  |  | | --- | --- | | 事業実施期間 | 平成３０年度から令和２年度【未】 | | 事業概要 | 空家活用によるＩターン世代等を主体とするシェアハウスの設置 | | 国の支援措置名及び支援期間 | 国の支援措置なし | | 事業効果及び進捗状況 | 丹波市内において、市のオフィス誘致の施策成果が出てきており、平成２９年度までに４件の企業進出が実施され、令和元年度当初にも１件操業があり雇用効果も生じつつある。 | | 事業の今後について | シェアハウス事業に賛同する空き家所有者の発掘に努める必要がある。 |   ⑤．旧役場等公共建物活用事業（丹波市観光協会・㈱まちづくり柏原）   |  |  | | --- | --- | | 事業実施期間 | 平成２９年度から令和２年度【実施中】 | | 事業概要 | 旧柏原町役場等を利用し、観光施策や集客の拠点施設整備を行う | | 国の支援措置名及び支援期間 | 地域・まちなか商業活性化支援事業（中心市街地再興戦略事業）のうち先導的・実証的事業（経済産業省）（平成２９年度から令和２年度） | | 事業効果及び進捗状況 | 平成２９年度は、丹波市と中心市街地活性化協議会等関係者によるプロジェクト会議を立ち上げ、旧柏原町役場活用による「丹波市観光拠点整備事業計画」を策定し、平成３０年度は具体的な事業内容の検討、調整に取組んだところであるが、同事業自体が白紙になり令和元年度は取り組みが中断した状況である。 | | 事業の今後について | 令和２年度から活用について再検討がはじまるため、事業が具体的に進むものと考える。 |   **●目標達成の見通し及び今後の対策**  当地区活性化の長年培ってきた基本路線である継続的なテナントミックス事業を、今後とも引き続き進展させるとともに、店舗のみから、宿泊施設・居住施設に空家・空店舗活用、さらには公共建物にも対象を広げ、その内容の効果を高めることが本計画の新しい方向であることから、それらの実現が重要となっている。そのために基幹的な事業として、旧町役場活用の具体的な事業内容がポイントであると考える。さらにその実施に向けて、庁内調整、地元調整が必要との課題もあることから、㈱まちづくり柏原を軸にしつつ、中心市街地活性化協議会と市が連携して、それら課題への対応を強めることが必要とされている。  「文化・交流施設の利用者数」※目標設定の考え方基本計画P89～P92参照   |  |  | | --- | --- | | 年 | （単位）人/日 | | H26 | 22,478  （基準年値） | | H28 | 28,093 | | H29 | 31,359 | | H30 | 31,647 | | R1 | 25,263 | | R2 | 30,000  （目標値） |   **●調査結果の推移**    ※調査方法：文化・交流施設の利用者数調査  ※調 査 月：令和２年３月実施  ※調査主体：丹波市  ※調査対象：木の根橋（観光案内所）・たんば黎明館・柏原歴史民俗資料館・田ステ女記念館  **●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果**  ①．大手会館（たんば黎明館）利活用促進事業（㈱まちづくり柏原・丹波市）   |  |  | | --- | --- | | 事業実施期間 | 平成２８年度から令和２年度【実施中】 | | 事業概要 | ブライダル・イベント等文化財建築の利活用による地域の価値向上 | | 国の支援措置名及び支援期間 | 国の支援措置なし | | 事業効果及び進捗状況 | 平成２７年度のたんば黎明館開業以降は、㈱まちづくり柏原が当館の管理を任されるとともに、中心市街地活性化協議会とその参加団体関連の会議、催し物の利用は当施設を中心に展開するようになっている。また１階の空スペース（会議室）を活用して、雛めぐり等地域イベント活用や創作店を行う等、積極的な賑わい創出を図っており、周辺施設の利用者数増加に寄与している。 | | 事業の今後について | 今後も引き続き多面的に利活用に向けた取り組みを実施する。 |   ②．観光・文化情報発信拠点整備事業（丹波市観光協会・民間）   |  |  | | --- | --- | | 事業実施期間 | 平成３０年度から令和２年度【実施中】 | | 事業概要 | 丹波市の玄関口として丹波市全域の情報発信拠点を整備する | | 国の支援措置名及び支援期間 | 国の支援措置なし | | 事業効果及び進捗状況 | 平成２９年度は、丹波市観光協会と共に、新たに中心市街地である柏原地区に設立された「観光まちづくりの会」も、観光に関連する情報発信機能を担っているほか、平成２９年度は㈱まちづくり柏原によるまちなか情報インフラ整備事業の実施、及び市の歴史案内板整備事業の設計業務が行われ、平成３０年度に事業化された。  旧町役場活用等の検討が進む中で、今後さらに観光文化情報発信の取り組みも充実するものと考える。 | | 事業の今後について | 旧役場等公共建物活用事業において柏原支所活用を検討する中で情報発信拠点としての位置付けを図る。 |   ③．柏原藩陣屋活用事業（丹波市・民間）   |  |  | | --- | --- | | 事業実施期間 | 平成２８年度から令和２年度【実施中】 | | 事業概要 | 柏原陣屋をイベントや講座等の開催場所として有効活用する | | 国の支援措置名及び支援期間 | 国の支援措置なし | | 事業効果及び進捗状況 | 平成２９年度は、かいばらライトアップ事業の一環として周辺施設と合わせて陣屋をライトアップ、平成３０年度からは陣屋正面スペースを舞台にみたて能を披露するなど貴重な文化遺産としての有効活用の観点からその魅力を最大限生かせる事業に取り組んでいる。  また、柏原藩織田まつりにおける武者行列メイン会場にも活用するとともに、観光客に向けて陣屋の魅力を発信している。 | | 事業の今後について | 今後も柏原藩陣屋を拠点としたイベント等の継続開催が集客効果をあげるものと考える。 |   ④．八幡公園整備事業（丹波市・八幡神社・柏原まちづくり協議会）   |  |  | | --- | --- | | 事業実施期間 | 平成２９年度から平成３０年度【未】 | | 事業概要 | リハビリ・機能強化の要素を持つ公園整備 | | 国の支援措置名及び支援期間 | 社会資本整備総合交付金（街なみ環境整備事業）（国土交通省）（平成２９年度から平成３０年度） | | 事業効果及び進捗状況 | 平成２８年度において、設計方針について中心市街地活性化協議会のもとに設けられている街なみ環境整備委員会で方向づけがされ、平成２９年度に設計着手の予定であったが、事業化までに土地の所有関係の調整が現土地所有者・八幡神社と調整が整わず、その状況は令和元年度においても変わりない。 | | 事業の今後について | 現土地所有者と協議を継続し調整を進める。 |   ⑤．木の根橋周辺観光空間整備事業（丹波市観光協会・自治協議会・丹波市）   |  |  | | --- | --- | | 事業実施期間 | 平成３０年度から令和元年度【未】 | | 事業概要 | 木の根橋周辺の観光空間化による地域の価値向上 | | 国の支援措置名及び支援期間 | 社会資本整備総合交付金（街なみ環境整備事業）（国土交通省）（平成３０年度から令和元年度） | | 事業効果及び進捗状況 | 木の根橋周辺は、旧町役場活用と一体となって、当地区の歴史・文化・自然の特徴を最も強くアピールできる観光拠点であることから、平成２９年度から平成３０年度にかけて旧町役場活用による観光拠点整備事業と連動した取り組みの検討を行った。令和元年度において、基本的な整備方針について関係機関との調整を持続的に進めてきたところであるが、旧町役場活用の計画が白紙になった関係で同事業も中断状態となっている。 | | 事業の今後について | 令和２年度、旧町役場活用の検討再開に合わせ事業を推進していく。 |   ●目標達成の見通し及び今後の対策  文化・交流施設の利用者数の目標については、これまでの活性化の成果であるたんば黎明館、柏原藩陣屋といった重点的施設の活用により、すでに達成されているが、さらに次の発展には、旧町役場活用と木の根橋周辺観光空間整備事業の推進が大きな鍵を握っている。同時にハード整備と合わせてソフト面での観光・文化情報発信拠点整備事業が連動することで、相乗効果が発揮できるものと考えている。  このため、白紙となった旧町役場をどのように活用するか検討を進めることが急務であり令和２年度中に具体的な活用方法を決定する必要がある。  活用については、関係主体が多岐に及ぶことから、主体間の調整、事業推進に必要な協議機関の設置等取り組みの体制を整えることも検討する必要がある。  ソフト面では、たんば黎明館や柏原藩陣屋をはじめ歴史文化施設を活用した取り組みが定着しており、今後はそれらをさらにブラッシュアップし推進していくことを検討する必要がある。  「新規店舗開業数」※目標設定の考え方基本計画P93参照   |  |  | | --- | --- | | 年 | （単位）店舗 | | H21～H26 | 7  （基準年値） | | H28 | 0 | | H29 | 2 | | H30 | 2 | | R1 | 0 | | R2 |  | | H28～R2 | 11  （目標値） |   **●調査結果の推移**    ※調査方法：新規店舗の開業数調査  ※調 査 月：令和２年３月実施  ※調査主体：丹波市  ※調査対象：テナントミックス推進事業・新規起業者支援事業・シェア店舗整備事業による新規開業店舗  **●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果**  ①．テナントミックス推進事業（㈱まちづくり柏原）【再掲】   |  |  | | --- | --- | | 事業実施期間 | 平成２８年度から令和２年度【実施中】 | | 事業概要 | 空家・空店舗活用によるテナントミックスの実施 | | 国の支援措置名及び支援期間 | 地域・まちなか商業活性化支援事業（中心市街地再興戦略事業）のうち先導的・実証的事業（経済産業省）（平成２８年度から令和２年度） | | 事業効果及び進捗状況 | 毎年１店舗、計５店舗を創業させるテナントミックス事業を予定しているが、平成２８年度の開業は０店舗であったが、平成２９年度は国の補助金を活用して２店舗の整備事業を行い開業し、平成３０年度も１店舗を数えた。令和元年度は０店舗となったが空き店舗の外観を改装し次年度において内装工事を行いチャレンジショップとして活用する計画がある。 | | 事業の今後について | 今後とも、従来通り㈱まちづくり柏原が中心となって活用可能な空店舗等の確保、建物所有者との交渉、出店希望者の募集等を行い、活用事業を促進していく。 |   ②．新規起業者支援事業（丹波市）   |  |  | | --- | --- | | 事業実施期間 | 平成２４年度から令和２年度【実施中】 | | 事業概要 | 新規起業者に対する融資・設備費支援 | | 国の支援措置名及び支援期間 | 国の支援措置なし | | 事業効果及び進捗状況 | 平成２４年度から、市の施策として取り組んでいる支援策であり、国の補助事業には適さない事業内容や小規模な起業に対する措置として、支援の隙間がないようにとの役割を果たしている。当地区においてもこれまでに当制度の活用が試みられており、今後とも効果的な運用で役割を果たせるものと考えている。 | | 事業の今後について | 新規起業者が安定的に継続的に事業が進められるよう引き続き支援を実施していく。 |   ③．シェア店舗整備事業（民間）   |  |  | | --- | --- | | 事業実施期間 | 平成３０年度から令和２年度【未】 | | 事業概要 | 小規模スペースのシェア店舗・シェアオフィス設置 | | 国の支援措置名及び支援期間 | 国の支援措置なし | | 事業効果及び進捗状況 | これまでは、集客力等でインパクトの強い店舗誘致・創出に主眼を置いて取り組んできた結果、その一定の成果が見られるようになった一方で、実際に使えるスペースが小規模化しつつあること、及び大型補助制度等には乗りにくいが長期的にみて成長の見込める店舗等を育てる視点も合わせ持つ意味で、今後の新展開として、平成３０年度からは小規模でも活用可能なスペースの抽出を行ってきたが、現在のところ未実施の状況である。 | | 事業の今後について | 店舗の使用希望者のニーズを把握し、実情に応じた空き店舗を確保し、その活用をはかる。 |   **●目標達成の見通し及び今後の対策**  新規店舗開業については、本計画において多様な組み合わせによる手法と、従来型のテナントミックス事業を地道に続けながら実施してきたが、新型コロナウイルスの影響により、新規店舗の開業意欲は大きく減退しており、基本計画の最終年度である本年において目標達成は大変難しい状況であると考えている。  今後の対策においては、旧町役場における拠点施設活用と同時に、小規模・小スペース及びアンテナショップ経営も含め、ターゲットの拡大をはかる。また、区域内での好条件なスペースの確保や起業者の掘り起こしをより精力的に取り組むことが必要とされる。 |